コミュニケーション文化学科

教育目標

「国際性」「現代性」「学際性」をキーワードに、世界の異なる価値観、歴史を踏まえた現代の文化・社会を理解し、人文科学・社会科学の基礎知識と手法を身につけたうえで、従来の学問の枠組みにとらわれない自由な発想と分野を開拓できる女性の育成をめざす。

学科が求める学生像

主体的に考えた上で、課題解決のために自ら行動できる人。

大学での主体的な学びを社会で実践し、他者を尊重しつつ、その発展に貢献することができる人。

異文化および価値観の異なる他者とのコミュニケーションにおいて、他者を受け容れ、知識や情報を正しく読み解いた上で、自分の考えを構築し、口頭や文章などで的確に伝えられる人。

自ら設定あるいは与えられた課題について、筋道立てて考え、課題の問題点と論点を発見し、表現できる人。

4 年間の学び

1 年次には、コミュニケーション文化学科の全体像を理解する「コミュニケーション文化概論 A・B」、主体的な考え方を身につける「エンパワメントゼミ I・II」などにより、学びの基礎を構築する。 また、日本語、欧米・アジア諸言語の口頭表現法により、口語表現の楽しさを学ぶ。

2 年次には、1 年次の内容を発展させる「エンパワメントゼミIII・IV」、基幹教員全員がそれぞれの分野で担当する「言語・異文化コミュニケーション」「表象・メディアコミュニケーション」「社会・政策コミュニケーション」の講義、演習科目により、広い視野を養いつつ、自らの専門分野を考える。また、体験や実践ができる科目も履修できる。

3 年次には、深く専門を探究する「卒業研究ゼミ I・II」が始まり、卒業研究ゼミ単位でゼミ合宿や集中授業を行う特殊研究も履修する。また、2 年次に引き続き基幹教員全員による演習科目、体験や実践ができる科目も履修できる。さらに、3 年次より履修できる専門教育科目の専門講義で専門性を高め、文学部共通科目により、文学部の本質探究に基づいた教養を学べる。

4 年次には、専門教育科目の専門講義や文学部共通科目を履修しつつ、自身の専門に関連する「卒業研究ゼミIII・IV」「卒業論文」により、卒業論文を完成させ、学びの総仕上げを行う。

履修モデル

1 「言語・異文化コミュニケーション」を中心に学ぶ

学年	全学共通科目	専門教育科目
1年	言語と文化 世界の歴史と文化	コミュニケーション文化概論 A・B エンパワメントゼミ I・II 日本語口頭表現法
2 年	地域と文化 哲学と思想	エンパワメントゼミIII・IV 言語・異文化コミュニケーション I・II/A・B・C・D 言語・異文化コミュニケーション演習 I・II/A・B・C・D
3 年		卒業研究ゼミ I・II コミュニケーション文化特殊研究 フィールドワーク 社会言語学
4 年		卒業研究ゼミIII・IV 語用論 言語文化論

2 「表象・メディアコミュニケーション」を中心に学ぶ

学年	全学共通科目	専門教育科目
1年	映像・演劇の世界 メディアと現代社会	コミュニケーション文化概論A・B エンパワメントゼミⅠ・Ⅱ フランス語口頭表現法
2年	ポピュラー・カルチャーの世界 音楽の世界	エンパワメントゼミⅢ・Ⅳ 表象・メディアコミュニケーションⅠ・Ⅱ/A・B・C・D・E 表象・メディアコミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ/A・B・C・D・E
3年		卒業研究ゼミⅠ・Ⅱ コミュニケーション文化特殊研究 映像制作
4年		卒業研究ゼミⅢ・Ⅳ メディア社会学 映像表現論

3 「社会・政策コミュニケーション」を中心に学ぶ

学年	全学共通科目	専門教育科目
1年	家族と現代社会 経済と現代社会	コミュニケーション文化概論A・B エンパワメントゼミⅠ・Ⅱ 英語口頭表現法
2年	政治と現代社会 世界の歴史と文化	エンパワメントゼミⅢ・Ⅳ 社会・政策コミュニケーションⅠ・Ⅱ/A・B・C・D 社会・政策コミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ/A・B・C・D
3年		卒業研究ゼミⅠ・Ⅱ コミュニケーション文化特殊研究 社会調査演習
4年		卒業研究ゼミⅢ・Ⅳ アメリカ社会論 公共政策論